

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区浜松町1-3-1・2F
園名	小嶋ナーサリースクール浜離宮

1 活動のテーマ

<テーマ>

色々な動きを楽しむ～試したり、繰り返したりを通して～

<テーマの設定理由>

園内全体やテラスを広く使い、全園児が関わりを持ちながら活動する中で、それぞれが多様な動きを経験する。遊びの中で動きを試し、繰り返し、楽しむ姿を保育者が把握し、探求したい気持ちを探る。子どもの興味や関心をさらに広げたり、深めたりするきっかけとなるように設定した。

2 活動スケジュール

- 1 月 各クラス環境を設定し、活動を行う。
振り返りを行い、カンファレンスを行う。
- 2 月 子どもの様子を元に、環境を再設定し、活動を行う。
振り返りを行い、カンファレンスを行う。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・運動スペースを作るために、各保育室のレイアウトを職員全体で話し合い、どの年齢の子どもも使えるプレイルームを設置した。子どもが自由に用具や遊具を取り出し、いろいろな動きを試し遊ぶことができるよう、室内環境を工夫した。
(ジャンプ&スプリングマット、大型滑り台、大型積み木など)
- ・各クラスに手先や指先を動かして遊ぶ教材や用具、玩具を配置し、繰り返し楽しめるような環境を構成した。
(ままごと、パズル、型はめ、ひも通しなど)

4 探究活動の実践

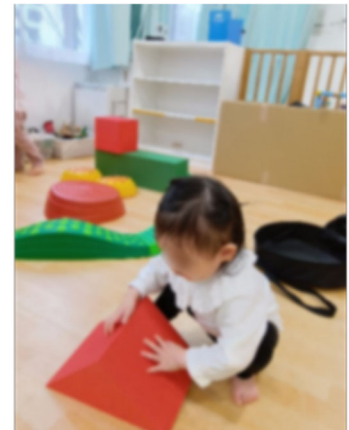
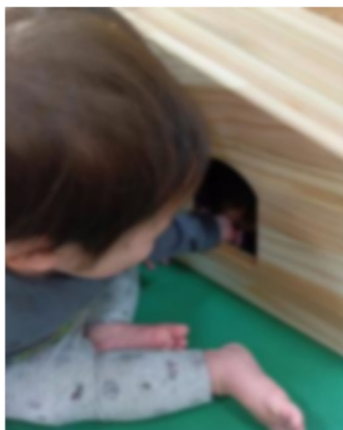
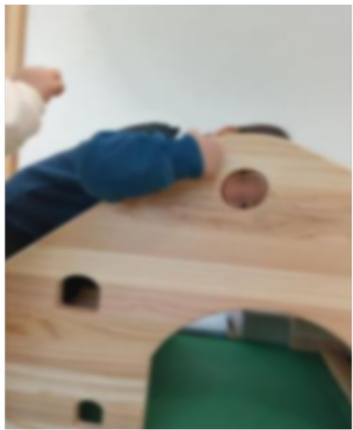
<活動の内容>

- ・玩具や運動器具などを使用して遊ぶ中で多様な動きを経験し、何度も繰り返し楽しむ。
- ・保育者は保育観察を行い、カンファレンスの中で援助や環境構成について話し合う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ジャンプマットでは、マットからマットへ移ったり、跳ね方を変えてみたりし、いろいろな跳び方を試していた。遠くまで跳ぶにはどうしたらよいかを考え、勢いをつけて跳ぶことを思いつく子もいた。マットの間隔を広げる、2枚重ねるなど、工夫して跳んでみようとする様子も見られた。
- ・大型積み木を家や家具などに見立て、ごっこ遊びに発展し、異年齢児でいろいろな役になりきって遊んでいた。
- ・大型滑り台で滑って遊ぶのみでなく、下の部分のトンネルを何度もくぐって試したり、側面に空いている穴をのぞいて他の子と目が合うと笑い合ったりするなどして楽しんでいた。



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・マットや積み木を自由に動かし、組み合わせて並べたり、一つずつ離しておいてみたりし、いろいろな跳び方や重ね方ができるよう、どの年齢の子も自分なりに工夫して試していた。5歳児は、一人では運ぶのが難しいと感じると友だちを誘い、一緒に持ち上げたり動かしたりし、友だちと力を合わせて行うという経験につながる遊びになっていた。

・滑り台をあおむけや横向き、うつ伏せで滑る、膝を使って階段を上る、大型積み木を車に見立てる、などいろいろと試し、どの遊具での遊びも大人が想像する動きにとどまらず、子どもはいろいろな発想で楽しんでいることがわかった。

・玩具に空いていた穴をのぞいた先にいた他の子と目が合うと笑い合うなど、偶然の動きの中にも楽しさが生まれることもあり、保育者が子どもの動きを見逃さず、一緒に笑い合って楽しさを共感することも大事だと感じた。

・今後も危険のないよう配慮し、子どもが遊びの中でいろいろなことに興味や関心をもって取り組んでいけるよう環境を整え、子どもの発見や試したいという意欲を支えていく。